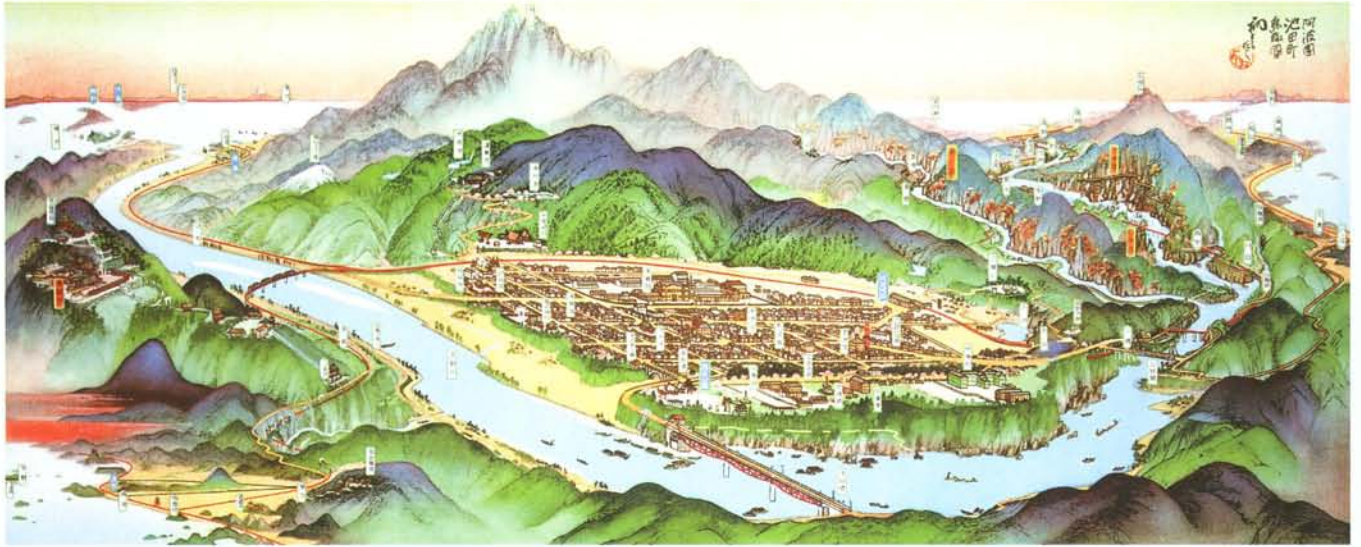


文書館だより

第27号

徳島県立文書館



吉田初三郎
「阿波国池田町鳥瞰図」
(昭和8年)

吉田初三郎(1884~1955)は京都に生まれ、「大正の広重」とも称された画家である。「初三郎式鳥瞰図」と呼ばれる独自のパノラマ地図は、ユニークな観光案内図として大正末から昭和前期にかけて一世を風靡した。この図は当時の池田観光協会の求めに応じて描かれた都市観光マップである。
(篠原家資料)

目	次		
未来につなげる近代化遺産.....	2	文書館にロケ隊がやってきた.....	7
シンポジウム「学校資料の保存と活用を考える」.....	3	文書館まるごと探検隊&文書館ウィーク.....	8
資料保存収集活動の現場から.....	4	文書館の利用案内.....	8
古文書の世界 明治五年徳島城の大展覧会.....	6		
文書館のあゆみ(平成18年1月~6月).....	7		

第33回企画展
「村の公文書」(仮題)
平成19年7月31日(火)~10月28日(日)
神山町は、全国的にも貴重な明治以来の公文書の宝庫です。それらの中から、特に貴重な公文書を紹介し、歴史資料としての公文書保存の意義を考えます。

第32回企画展
「徳島近代交通史―船から鉄道へ―」

第32回資料紹介展
「写真展 城下町徳島」(仮題)
平成19年4月24日(火)~7月29日(日)
空襲以前の徳島は、江戸時代から続く街並みと、少しずつ建ち始めた近代建築が調和した風情ある都市でした。文書館に残る写真から、かつての街並みを再現します。

特別企画展
「庚午事変の群像」

平成19年1月23日(火)~4月22日(日)
近代の幕開けに起こった庚午事変は、その後の徳島に大きな影響を残しました。多くの人々に悲劇をもたらしたこの大事件を、明治政府の公文書や関係者の日記、書軸などを通して振り返ります。

第32回企画展
「徳島近代交通史―船から鉄道へ―」

平成18年10月31日(火)~平成19年1月21日(日)
明治から昭和にかけて大きく変貌していった徳島の交通を、絵画・写真・観光パンフレットなどのさまざまな資料を通して振り返ります。

シンポジウム

「学校資料の保存と活用を考える」

学校にはさまざまな歴史資料が残されている。これらの資料は学校の歴史を語ると共に、児童生徒や教職員、地域の人々がそこで生きた「証」となる大切な宝物である。

このような学校資料の保存と活用

の重要性を訴えるために、徳島県立文書館では平成十八年四月二十五日から七月三〇日まで資料紹介展「学校の宝物」を開催した。その関連行事として、県内で実際に学校資料の保存に携わられた方をお招きしてのシンポジウムを、七月

二日(田)に開催した。

今回パネラーを務めて

いただいたのは、協町高

校が学校の資料館として

全国的に知られる「芳越

歴史館」を建設した際に、

同校に残されていた膨大

な学校資料の整理にあた

られた逢坂俊男氏。今春

閉校した日和佐高校・海

南高校・穴喰商業高校の

資料保存と、新設された

海部高校での「三校歴史

館」開設に奔走されてい

る小林勝美氏。今年創立

一一〇周年を迎えた富岡

西高校の資料整理と保存

に取り組んでおられる久

米欣之介氏のみなさんで

ある。

パネラーのみなさんか

シンポジウム風景



らは、「学校統廃合や創立百周年・百十周年記念事業が整理作業立ち上げのきっかけとなった。」「学校のどのような所にどのような資料が眠っていたか。」「学校資料は記念誌編纂の基礎資料として、また展示などを通して学校のアイデンティティを示す資料として有効に活用できる。」「経費削減が叫ばれ職員が多忙化が問題となっているおりに、保存環境やレファレンス体制をいかに整備していくのか。展示・公開にあたっての個人情報保護の問題をどのようにクリアしていくのか。課題は山積している。」等について、体験をふまえた貴重な提言をいただいた。

その後、会場の参加者を交えての意見交換が行われたが、その中で「協町高校では芳越歴史館を見学することによって、生徒が自分の学校に誇りを持つようになる。」「保存年限が二十年となっている指導要録の保存をいかに考えるか。」「これから学校の統廃合が計画されているが、十分な資料保存スペースの確保が困難である。」「かつての生徒作品

今年徳島県内に二つの学校資料館が誕生した。九月九日、学校再編によって今春閉校した日和佐高校・海南高校・穴喰商業高校の資料を保存・展示する「三校歴史館」が、三校の統合先として開校した海部高校に開設された。また、十一月八日に創立百十周年の式典を挙行した富岡西高校では、同校の「創立百周年記念館」に史料展示室がオープンした。この二つの資料館は、同窓会をはじめとする関係者の並々ならぬ努力のたまものであり、学校資料保存のひとつのモデルケースとなるものといえよう。

それぞれの学校に事前に連絡すれば、見学等に対応していただけるということなので、ぜひご利用いただきたい。

や記念写真などは貴重な資料であるが、これからは著作権や肖像権の問題も考えなければならぬのではないか。」などの意見が出された。

最後に「これからも学校の再編統合や校舎の建て替え・耐震補強工事などが行われていく。その際に学校資料の保存を文書館としてどのように進めていこうとしているのか。大いに期待し、かつ注目している。」という参加者から文書館への叱咤激励をもって、この有意義なシンポジウムは幕を閉じた。

未来につなげる近代化遺産 歴史の語り部としての〈高原石油旧館〉

立石 恵 嗣

歴史的文化財としての「近代化遺産」が注目を集めている。明治以降、いわゆる近代になって生みだされた建物や施設などの歴史遺産である。現代日本を生み出す母胎となった近代という時代を歴史的世界として捉え直していかうとする一連の動向から生まれた。

さて、第二次大戦末期の昭和二〇（一九四五）年七月、徳島市は米軍による空襲を受け、市街地の約七〇%を焼失した。米国立公文書館に残る空襲直後の徳島市を撮影した航空写真によると市街地は燃え尽きて真っ白である。江戸時代の風情を色濃く残した全国有数の城下町徳島はこれにより消滅し、その繁栄を偲ぶ歴史遺産も大半が失われた。市街地で焼け残ったのは、徳島県庁や第一勧業銀行（現みずほ銀行）、三河家住宅、市街から外れた佐古の浄水場などほとんどが戦前の徳島では数少なかった鉄筋コンクリートの建物である。戦後六〇年を経過し、徳島県庁は文書館に部分移築され往時の面影を伝



竣工当時の高原商店（昭和6年）

えているが、徳島市役所や丸新百貨店も改築や撤去により完全に姿を消した。この中であって船場の高原ビル旧館は、昭和六（一九三一）年建築当時の姿を伝える貴重な建物であり、平成九（一九九一）年国の「登録文化財」に指定された。

先日、建物の内部を見せていただき大きな感銘を受けた。高原ビルは昭和六年建設の旧館と、平成八年に新町川に面して建てられた新館の複合ビルであるが、新しい時代と地域に根ざして生きる建物として先進的な試みを感じた。戦火に耐えて生き残った旧館は、昭和を代表する建築家鈴木楨次（夏目漱石の義弟）の設計になる歴史的建築物である。外壁

は旧徳島県庁と同じ褐色のスクラッチタイルが貼られ、ピンクのキャストストーンが使われるなど竣工当時はモダンな建築であったことが窓や外観の意匠に見て取れる。

何よりも驚いたことは旧館の内部に残されたたび割れた窓ガラスである。旧館は基本的には建築当時のままの構造が保存されているが、二階の窓には六角状の網の入った強化ガラスが窓ガラスがそのまま使用されている。そこに生々しいたび割れが残っているのである。空襲の熱と衝撃に耐え、六〇年を経て今に残るこの窓ガラスのヒビは無言で戦火のすさまじさを物語っている。むき出しになったコンクリートの天井や桜の床板などにも建築当時の構造物が保存されており、時空を超えた歴史や時代の重みを感じる。

高原ビルのある船場は、江戸期には城下町徳島の中心地であった。大阪の船場と同じく、水の都徳島の象徴であった新町川の水運の集積地として繁栄した場所である。空襲は一瞬にして繁栄した城下町の歴史を灰燼に帰した。その上、戦後六〇年という時間の経過は、歴史の記録を風化させ、人びとの意識や脳裏から記憶を奪い去っている。

この中であって、この場所は歴史の「記憶」を蘇らせ、鮮明に呼び覚ます得難い「記録」の場となっ

ている。この意味においてこの場所は、時代を伝える歴史の証言者であり、語り部である。この遺産を保存し、後世に伝えようとするご当主の強い歴史意識や見識に敬服した。過去を単なる思い出ではなく、現在や未来を照らし出す経験であるとするならば、先人から学び未来に伝えなければならぬ私たちの使命はまさにここからはじまるのではないかと思う。

徳島という地域は現在、経済的にも社会的にも停滞と低迷の中にある。藍で栄えた江戸時代の繁栄も遠い歴史的世界となってしまった。しかも戦前まで続いた繁栄の名残は大戦の空襲で消滅。戦後六〇年を経過し、若者の意識には戦後の停滞した田舎の町としての記憶や認識しかないようである。

地域の再生、徳島の再興が叫ばれているが、豊かな繁栄を誇った阿波の徳島であるからこそ、地域の歴史に根ざした地道な活動が不可欠である。町おこしの起爆剤として豊かな歴史遺産の発掘と活用が必要である。その時、この場所は、地域再生の支点として重要な核になりうるのではないかと確信する。この歴史遺産を未来のために活用していく近代化遺産の意義を考えさせられる場所として考えていきたいと願う。

（館長）



阿波国共同汽船株式会社小松島支店全景（絵葉書）

通称「ハイカラ館」は港町小松島のシンボルとして親しまれた。（篠原家資料）

へ足繁く通った。このころは特に生
 国阿波を意識することなく、全国を
 視野に入れて、自分で気に入った紙
 物を収集していた。昭和四十七年は
 新幹線岡山開業や鉄道一〇〇年の年
 となり、全国で祝賀行事や記念切符
 類の発行が相次いだ思い出深い年で
 あった。

生家を継ぐため帰郷してからも、
 頭の切り替えができず、全国的規模
 での収集を続けた。各地の国私鉄へ
 依頼文書を送り、随分送っていただ
 いた。試乗券や記念券は非売品なの
 で、好意に頼らざるを得なかったの
 である。同好者からも多数譲ってい
 ただいた。専門業者からも日常的に

購入した。戦
 前の国内・中
 国・朝鮮・台
 湾などの切
 符、戦後廃止
 が相次いだ国
 私鉄の切符類
 が次々と手元
 に届いた。
 三十路を越
 えて、阿波の
 風土に生きて
 いるという意
 識が強くな
 り、年を追う
 ごとに阿波国
 の歴史資料収
 集へと軸足を
 移した。それ
 に反比例し
 て、全国規模
 の切符収集か
 ら遠ざかっ
 た。それでも
 節目節目では
 動いた。例え

ば、昭和六〇年三月九日の小松島線
 さよなら列車への乗車、同六十二年
 三月三十一日の国鉄からJRへ移行
 する当日の深夜、宇高連絡線に乗船
 し、船内での記念行事に参加したこ
 となどである。
 若い時分に長い間集めてきた鉄道
 を中心とする切符類と関連資料は、
 一点も処分せず、すべてを所蔵して
 いる。今では、入手難の貴重品も少
 なくない。もともと、今にして思え
 ば、阿波国関係交通資料をもっと収
 集しておけばよかったと、反省して
 いる次第である。

現在拙宅には、毎日のように全国
 各地から古書目録が届く。最近では
 ネット取引も増えてきた。阿波国の
 郷土書・古文書・和本・刷物・軸物・
 写真資料といった歴史物が中心であ
 る。特に、絵葉書・引札・番付・版
 画・チラシ・相撲錦絵といった一枚
 物は未見の物が多く、興味が尽きな
 い注文した資料が届き、現物を手に
 とるときが何よりの楽しみである。
 一介の勤め人としては、身分不相
 応なほどの時間と手間と資金を注い
 できた。その経験から言って、阿波
 国で長い間に発行されてきた資料の
 数は、質量ともに驚くばかりであ
 る。これらの貴重な資料を阿波国内
 にとどめ、後世に伝えていくこと
 が、阿州に生まれ、生き、死んでい
 く自分自身の責務と思ひ、日々入手
 と研究に努めている。

平成18年度 徳島県立文書館資料調査員一覧

- 福原 健生（徳島市・名東郡担当）
- 松本 博（徳島市・名東郡担当）
- 橋本 啓司（鳴門市担当）
- 木村 泰彦（小松島市・勝浦郡担当）
- 宮本 和宏（阿南市担当）
- 稲飯 幸生（名西郡担当）
- 森江 泰男（那賀町担当）
- 富田 武（海部郡担当）
- 三好昭一郎（板野郡担当）
- 松村 宏道（阿波郡担当）
- 芝原富士夫（吉野川市担当）
- 篠原 俊次（美馬市・つるぎ町担当）
- 大岩 義雄（三好市・東みよし町担当）

資料の保存等でお悩みの方は、徳島県立文書館
 (TEL 088-668-3700) までお気軽にご連絡くださ
 い。文書館職員や資料調査員がご相談に乗らせて
 いただきます。

資料保存収集活動の現場から

文書館資料調査員制度

徳島県立文書館では、県下各地区に資料調査員を設置して、歴史資料の所在調査や情報収集をお願いしている。今回は文書館の資料保存活動の第一線で活動しておられる文書館資料調査員の内、森江泰男さんからは日々の活動を通して感じられたことを、篠原俊次さんからはご自身の収集活動についてそれぞれ寄稿していただいた。

資料調査の中で思うこと

森江 泰男

「文書館」って何ですか？ 私は徳島県立文書館の資料調査員ですが、と言ったときのことである。

徳島近代交通史的那賀川による筏流し関係の資料調査に行った時のことである。

那賀川流域の小さな集落の道端で五、六人の老男女が立ち話にふけていた。説明をすればすぐ理解してくれ、最初に言ってくれば解ったのにと……徳島県にもいろいろんな施設があるのですねと言って、昔からのこと、それはあの付近にあるとか、尚詳しくはどこそこのI宅に行きなさいと親切に教えてくれる。

その老夫婦宅へお伺いし、それはご苦労様ですと反対に感謝され、励まされる場面もあった。

資料の出所はたぶんあそこから出ているのではないかと、だんだん糸口がほぐれていく。その時代ではありふれたものが大事に保存され、写真なんかも、一般化されていない貴重なものが、子・孫の代までずっと

破棄もされずに現在まで保存されてきた先人達に、感心させられると同時に敬服する。尚、関係資料その他の古文書があれば、お知らせ下さいと依頼してくる。

文書館とは、徳島県に関する歴史



佐野家文書（旧相生町教育委員会より預かり）の一部
資料調査員の活動が文書館資料の収集につながる。

こんなものは大したことないだろうと自分勝手に判断しないで、相談してもらいたいと思う。

このように、役場、役所、事業所、一般家庭の老若男女を問わず、まだまだ史料保存の重要性と、それを保存・保管する施設があることの認識が不足している人が、他にも大勢いるのではないかと思われる。

的文化的な価値のある公文書、古文書、行政資料その他を収集、保存及び調査研究等をして、広く県民に利用してもらう施設である。

今までの調査活動でもつくづく感じてはいたが、再確認した次第である。尚、今後とも地道ではあるが、気長く啓発していく必要があるのではないか。

郷土資料収集の日々

篠原 俊次

子どもの時分から収集することが好きである。とりわけ紙物に愛着が深い。読むことも好きなのだが、それ以上に集めることに楽しみをおぼえる。

十代後半までは書物と切手が主だったが、学生として十八歳で上京してからは、一般古書と乗物切符が中心となった。東京各地の古書店や、新橋にあった日本交通趣味協会

文書館のあゆみ


(平成18年1月～6月)

1月10日	企画展展示解説 那賀川町古文書講座出講 徳島の古文書を読む会監査
12日	歴史講座③武知忠義氏「賀川豊彦と中国」
14日	第30回資料紹介展「村絵図の世界」(4月23日)
22日	資料調査(那賀町)
31日	徳島の古文書を読む会総会・講演会 海南町古文書講座出講(18日・25日)
2月4日	歴史講座④逢坂俊男氏「自助社と自由民権運動」 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協) 第3回役員会(岡山)
5日	資料調査(板野高校)
11日	シルバー大学院出講(3月1日・8日)
12日	公文書公開非公開審査会
14日	歴史講座⑤多喜田昌裕氏「徳島妖怪探訪記」
16日	全史料協・企業史料協合同研修会
18日	予備監査
20日	資料紹介展展示講演会
22日	資料調査・収集(牟岐町満石家)
24日	徳島の古文書を読む会運営委員会
26日	資料調査員会議
27日	資料調査(富岡西高校・富岡東高校)
3月1日	資料調査(辻高校・脇町高校)
5日	資料調査(徳島工業高校・徳島商業高校)
8日	本監査
11日	校誌交換会
13日	展示資料借用(富岡西高校・徳島工業高校)
14日	資料調査・展示資料借用(脇町高校・辻高校・池田高校・川島高校)
15日	資料調査・展示資料借用(水産高校・海部高校)
16日	展示資料借用(脇町高校・徳島工業高校)
18日	第31回資料紹介展「学校の宝物」(7月30日)
25日	全史料協近畿部会役員会(和歌山県立文書館)
26日	徳島地方史研究会来館(見学)
29日	文化の森子どもフェスティバル「文書館まるごと探検隊」
5月5日	古文書講座(初級)開講式①
6日	全史料協第1回研修・研究委員会(尼崎市立地域研究資料館)
10日	文化の森新任及び転任職員人権研修会
16日	古文書講座(初級)②
23日	全史料協第1回役員会(24日 岐阜県高山市)
25日	全国公文書館長会議(26日 東京都)
29日	文書館ワークショップ(7日)
6月1日	全史料協近畿部会総会(大阪市立総合生涯学習センター)
3日	古文書講座(初級)③
4日	古文書講座(おためし編)
8日	資料紹介展展示解説
9日	資料調査(三木ガーデン資料館)
10日	資料調査(つるぎ町)
16日	徳島の古文書を読む会運営委員会
17日	勝占東公民館来館(見学)
24日	古文書講座(初級)④
25日	全史料協近畿部会古文書研究会(奈良女性センター)
29日	立江公民館来館(見学)
	文書館協議会


八月から九月にかけて、映画『眉山』(原作さだまさし 監督犬童一心)のロケが県内各地で行われたが、そのロケ地の一つに徳島県立文書館が選ばれた。

ご承知のように、文書館は昭和五年に完成し昭和六一年まで使用されていた旧徳島県庁舎を模して、その建材の一部を移築したものだ。この文書館の外観が、映画の冒頭とラストに登場する大学講堂のイメージにぴったりだったところから、今回のロケとなった。

さて、犬童監督や主演の松嶋菜々子さんが参加しての撮影は、九月五日の早朝からスタート。撮影機材が




映画『眉山』撮影



撮影風景 (東宝株式会社提供)

文書館にロケ隊がやってきた



セットされる中をスタッフが忙しうに行き交い、いつもの見慣れた風景が撮影現場に様変わりした。ところが、この日はあいにくの雨模様で、数カット撮ったところで撮影は中止。九月二五日のロケ最終日に再度の撮影となった。わずか数分のシーンを撮るために、これだけの時間と労力が費やされるとは……映画作りの大変さを痛感した二日間であった。

映画『眉山』の公開予定は平成十九年五月。徳島県立文書館がどのように大学講堂に“変身”しているか。今から楽しみである。

古文書の世界

明治五年徳島城の『大展覽会』
『明治五壬申歳 展覽会大開帳大綱覚書』

徳野 隆

明治五（一八七二）年に湯島聖堂大成殿で開催された「文部省博覧会」をはじめとして、全国に一大博覧会ブームが巻き起こった。徳島県においても、明治五年八月に、前年の廢藩置県によって蜂須賀家の手を離れ陸軍の管轄下に入った徳島城を会場にして展覽会が開催されている。この展覽会については不明の点が多いが、その一端を垣間見せてくれるのが『明治五壬申歳 展覽会大開帳大綱覚書』（徳島県立文書館寄託木内家文書 キノウ00420000）である。ここにその一部を紹介する。

（表紙）

明治五壬申歳

展覽会大開帳大綱覚書

八月廿日ヨリ九月廿日迄

九月十七八両日拝見

十七、一万二千人平日三千

（本文）

拝見料式匁十歳已下無銭、

大玄関より上り松ノ間・井筒間・

鎗ノ間・蘇鉄間・鶴ノ間・庭前

鷲ノ間・柳ノ間

八間二石有、御座敷北へ行詰西へ折廻り、二行二仏像・掛字・宝物、間毎表テ裏ニ有、五十間西へ行詰、亦南ノ裏手ヲ東へ行、順々御感状ノ間組天井有、焚火ノマ中通行南ノ橋ニハ御役人詰所有、西ノ行詰北へ行三間程御殿女中ノ間

（中略）

二千畳山ノ上一町、大家七軒程有、見セ物生キ人形・畜類・品玉（手品）・カナクリ等多ク有ト雖、唐ラノゾキ随一見事也、十六二分リテ目鏡々ニテ違外ニ続物無、見料式匁ニテ安、夫ヨリ角ニ櫓三階、御山下見ヘル太鼓櫓ハ石垣共十八間有、夫ヨリ下城、凡一日役也
開帳百五十箇所
見セ物二十ヶ所
茶屋三十軒 上下ニテ

買物

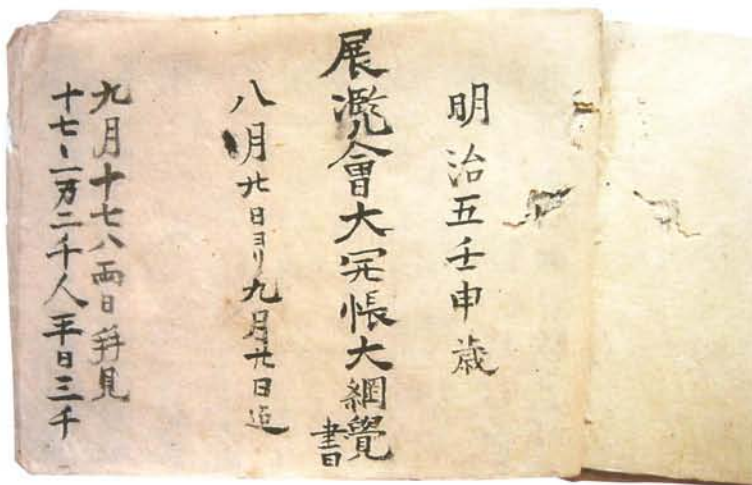
一 駕三百三拾目 古駕遣り
一 襖二枚 式両半
一 小唐カ子鍋 式拾目 山勘

一 鉄サビ落シ 壹匁
一 仲蔵へ 四拾壹匁
一 札料 六分 二度ニ
一 散銭 八分
外ニ散米一合
一 ノゾキ 式匁
一 見セ物十 五匁二分
一 植木 五匁
一 式両半
一 四百十匁

（句読点は筆者による）

これは木内家の誰かが残した「見物記」であるが、これによると、従来明治五年八月としかわかっていな

かったこの展覽会の期日が八月二十日から九月二十日であること。入場料は十匁で十歳以下は無料であること。一日三千人程度という驚異的な入場者があったこと。徳島城御殿の各間を会場に各種の「宝物」が展示されていたこと、などがわかる。さらに興味深いのは、城山その他会場の周辺には、『大綱覚書』の著者が「随一見事也」と評した唐ノゾキ（のぞきからくり）をはじめとする見せ物小屋が二十カ所、茶屋が三十軒、開帳が百五十カ所ほど展開していることである。九月十七・十八の二日間見学した著者は、駕籠や襖などの買物も済ませて、「一日役也」とご満悦の様子である。



『展覽会大開帳大綱覚書』表紙部分

明治維新からわずかに五年。廢藩置県により蜂須賀家が徳島を去ってから数ヶ月。江戸時代には蜂須賀家の権威と権力の象徴であった徳島城は。この一ヶ月の間老若男女でごった返す一大テーマパークの観を呈していた。これほど時代の変化を人々に印象づけるべきことも少なかったのではないだろうか。この『大綱覚書』はそんな歴史のひとつを伝える貴重な史料といえる。

（係長）

文書館まるごと探検隊&文書館ウィーク

「文書館は専門家のための施設なの」という声を時々耳にする。このような誤解を解消するために、文書館では次のような新規事業に取り組んだ。

文書館まるごと探検隊

平成十八年度からスタートした「文化の森こどもフェスティバル」の一環として、文書館では「文書館まるごと探検隊」を五月五日に開催した。当日は参加してくれた小学生や保護者のみなさんには、古文書クイズを交えた館内ラリーなどで楽しんでいただいた。



文書館まるごと探検隊

文書館ウィーク

昭和六三（一九八八）年六月一日、我が国ではじめて、アーカイブズ（記録資料）の保存利用に関する法律である「公文書館法」が施行された。中国四国地区の各文書館・公文書館では、これを記念して毎年六月一日～七日を文書館（アーカイブズ）ウィークとして、記録資料の保存と活用の重要性や文書館・公文書館の役割をアピールするイベントを開催することとなった。

徳島県立文書館では期間中の六月四日(日)に、「古文書には興味があるけど難しそうだし」という方を対象に、クイズなどを盛り込んで古文書の初歩を楽しみながら学んでいた「古文書講座（お話し編）」を開催し、多くの方の参加を得た。また、六月一日から七日まで「古文書なんでも相談会」を開催し、「自分で郷土史関係の本を出版したい」「家にあった古文書の意味を知りたい」などといった来館者の質問にお応えした。

文書館は徳島の歴史に興味をお持ちの方ならどなたでもお楽しみいただけます。お気軽にお立ち寄りください。

文書館の利用案内

利用方法

- 閲覧室の検索用端末機で必要な資料を検索し、閲覧票に必要事項を記入して、受付に提出してください。
- 閲覧室の書架に配置された行政資料等は、自由に閲覧できます。
- 資料の複写や出版物等への掲載は、受付へ申し込んで所定の手続きをしてください。
- 複写サービスは実費をいただきます。
- 資料の館外貸し出しは原則として行いません。

開館時間

○ 午前九時三〇分～午後五時

休館日

- 毎週月曜日
- (祝祭日の場合は翌日)
- 毎月第三木曜日
- 年末年始
(十二月二十八日～一月四日)
- ※ 資料整理・燻蒸のため必要に応じて臨時休館することがあります。

交通のご案内

- ◇ JR徳島駅から
徳島市営バス・
徳島バス利用(約二五分)
- ◇ JR牟岐線文化の森駅下車
徒歩約三五分



ホームページアドレス <http://www.archic.tokushima-ec.ed.jp> (徳島県立文書館)

文書館だより 第27号

平成十八年十二月二十七日発行
編集兼発行 徳島県立文書館
〒七七〇一八〇七〇

印刷 徳島市八万町向寺山
文化の森総合公園内
電話(〇八〇)六六八三三〇〇
徳島県教育印刷株式会社